

『アンシャンテ！』2024.パリへようこそ！

二〇二一年に、日本の東京でオリンピックがあったのを覚えていますか。
フランスの『パリ』は、七月二十六日から、『パリオリンピック』と『パラリンピック』という、スポーツの大会があります。

このお話は、パリオリンピックに出場する四人の選手から皆さんへ向けたメッセージを込めたものです。
みなさんの代わりに、りんごの『コロ』が、お話を聞いています。ちょっとした物語に入ったつもりで、見てくださいね。

*

目の前から、白い服を着て、黒い帯をつけている人が歩いてきました。

「ぼくは、永山竜樹といます」永山選手は、パリオリンピックに出場します。

柔道という種目の60キロ級でます。」

背が大きくて、体重が重いのがスポーツ選手というイメージがあるでしょう。

永山選手はオリンピックに出場する選手のなかでも、小さい体をしています。

パリなのに、日本にいるみたい。不思議だなあ。永山選手の着ている白い服と、ピッタリ。道着といえます。

「これは『柔道場』といって、練習をするところだよ。柔道は、日本で生まれたから、『国技』というんだ。こ

こは、ビニルでできていますが、『たたみ』の道場というところで、練習する場合もあるよ」

みんなの家に、たたみの部屋はありますか？

「あう…ぼく、体が小さいんです。大きい人が怖くないんですか？」

「僕は、小学生の頃から、体が小さくて、なかなか大きい選手にかてなかった。気持ちでも絶対に負けない

と思っていたよ。カでも勝てるように、大きい選手が十回練習するとしたら、二十回練習する。倍やっ

ました」

「すごい。僕は、ゴロという、犬が怖くて…大きい人のほうが強いのですか？」

「柔道の、だいがみは、小さい選手が、大きい人を投げる。だから、大きい人が出る大会にも出ているよ」

「何か、大きい人と対戦する時に、考えていることはあるんですか？」



井手隆太



↑ 永山選手と筆者

「大きいから勝てない、不利だとは思わないようにしてる。大きい選手に、自分が勝ったら、かっこいいとか、楽しいないつも思うようにしてるよ」

「あの…緊張して赤くなってしまふことがあるんですが(いつも)やっぱり…直さないとダメですか？」

「ぼくも、緊張をすることがあるよ。最初は、緊張をなくそうとしていたこともあった。でも、緊張をしないってことは、本気ではないと思う。だから、緊張をするということはいいことなんだよ。真剣になっていることだし、本気になっているということだから」

「緊張するっていいことなんだ…緊張は、なくならないんですか？」

「僕も、さいしょは、緊張をなくそうとしていたこともあった。だけど、緊張するのは、当たり前。緊張しても、いつでも力を出せるように準備をしておけばだいじょうぶだよ」

永山選手、ありがとうございます。ウルウル。

僕、ゴロに負けないように頑張ります！なんか、元気が出てきた！

えいっ！しっかりつかまってる！

あつ、ハートの島が見えてきた…潮の香り。目をつぶって…

ゆっくり…目を開けてみて。きれいな水色の海。さらさらの砂浜…

「世界一きれいな海」にようこそ！「ここは、タヒチというところ。」

「サリュ！アンシャンテ！稲葉玲王です。パリオリンピックのサーフィンという競技に出るよ」

近くでみると大きいなあ。でも、ここにこしていて優しそう。

サーフィンは、ハワイでうまれたスポーツ。最初はライフガードといって、海でお

ぼれてしまった人などを助けていた人が、はじめたスポーツなんだって。

「ぼく塩水が苦手なんです(しわしわに…)波は、こわくないんですか？」

「サーフィンは、五さいのときから始めたんだ。お父さんがプロで、家から歩いてすぐ近くが海だったから、最初は無理やり連れていかれたんだけど…」

「こわくなかったんですか？」

「最初は嫌で、泣いていた。けれど、続けているうちに、サーフィンが好きになってたんだ。」

小学生くらいで、うまくできるようになったかもしれないな。中学一年生で、プロになったんだよ」



↑ 筆者/稲葉選手/上川柊人君/武田さん

「ぼく、コロコロ気持ちがかわるんですけど、どうしたらいいですか？（まるいからころがっちゃう）」

「なかなか結果が出ない時とかよくある。そういう時は、釣りをしている。そのうちに、サーフィンやりたくなって思うんだよね。気がついたら、やっているって感じ」

「僕、どんなりんごになりたいのか、夢がないんです」

「好きなことはある？その好きなことを続けていけば、それが夢になると思う。一つだけじゃなくて、いろいろなことをすれば、それだけ可能性が広がるよ」

なんかここ、あつかくておちつく。

「いなばせんしゅー。あれ？ねてる。おーい！」

「ごめんごめん。僕は大会のまえでも、いつでもリラックスするようにして、ねちやうこともあるんだ」
バンツ！いてて…なにかにぶつかったぞ。ちょうしのとつてるからだよって…

たかいかべ。カラフルな石みたいなのがついてる。

「ヴィサレビヤン！アンシャンテ。ぼくは、安楽宙斗です。ボルダリングという競技に出ます！十七歳です。
高校三年生です」

「どうやって、こんなに高いところに…若いのに、ベテラン忍者みたい…」

ボルダリングは、十五メートルのカベにどれだけのぼれるかという『スピード』、
五メートル以下のかべにのぼる『ボルダー』がある。

もとは、自然の岩を、道具に頼らないで、自分の手と足で登っていたのが、

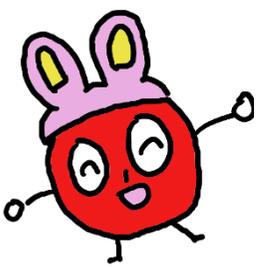
「進化」したもののなんだって！安全のためのロープをつけるのはいいけど、登るための道具は使えない。
忍者より、すごいんじゃないの！？

「僕…何かを始める勇気がないですけど、どうしたらいいですか？」

「僕がクライミングをはじめたのは、小学二年生の夏休みの前。毎日、夏休みに登ってたんだよ。クライミング
グって、見ている人が応援してくれるんだ。それが嬉しくて、ずっと続けている。人に負けたくないから、た
くさん練習して、ボルダリング一つをやってきたら、結果がでたんだ」

「大会にもたくさんでていると思うんですけど、終わったら、だらっとしちゃいますか？ぼくは大事な仕事の
後に何も考えないんです」

「大会とか、（スタートする前に）どうなりたかという、ゴールから考えてみたらどうかな？大会が終わった



ら直そうってところを見つけて、次までにどうしたいかってなって作戦を決めているよ。大会は自分を見直すことにつながる、いい機会うなんだ」

「ぼく、自分よりも大きくてつやがあるりんこの前では、なにも言えなくて…」

「ぼくは、大人がたくさん出ている大会に出ているんだけど、負けて当たり前だって、いつも『がおしやら』にやってるんだ」

「安楽選手の中で…すごい太いですね」

「これは、クライミングを続けていたら、太くなったんだよ。クライミングって、行けるところまで登って、落ちて…休んで、登る…そして落ちる…それで強くなるんだ」

「えっ…落ちるのも練習のうち…人生みたいですね」



一つのことをがんばれば、オリンピックにも出られるかもしれないんだ…

「ニヤオ」かわいいねこ。なでなで。

よくみたら、人間だった！背骨がぐにゃんと曲がっていたから、ねこだと思った。

「アンシャンテ。文田健一郎です。レスリング選手です！」

そう、この人は、ねこ。じゃなくて！あまりの体のやわらかさで、ねこレスラーと呼ばれているんだよ。

レスリングは一回目のオリンピックからあるんだって。カップラーメンができる時間と同じ、だいたい三分の間に、相手の両方の肩を床につけると勝ちになる。背中から倒すか、背中を押さえると点になる場合もあるんだ。

文田選手は、前回の東京オリンピックで銀メダルをとっていて、パリの大会にも出るんだよ。

「ぼく、(りんこのくせに)みつがほとんど入っていなくてすごく体が硬いんです」

「みんな、運動の前にストレッチやるよね？けがをしないために。運動の後のストレッチも大事。こっちは、体をやわらかくするためなんだ。体がやわらかいと、けがしにくいんだ、にゃん」

「あれ？今ねこに…ぼくは、スーパーマンになるという夢があります。なにか大切なことってありますか？」

「スポーツでも、勉強でも、好きだなって思う気持ちが大変だよ。同じ時間やっているのだったら、好きになろうと思ってみるといいんじゃないかな」

「ぼくは赤くなって、すぐに怒ったり、すぐに泣いちゃったりするんですがどうしたらいいですか？」

「そういうのを、『感情』が出るというんだけど、それは、『本気』という証拠。逆に、感情がでないということは、本気ではないということになる。ぼくは、いつも本気でいたい。だから、感情を出すようにしているよ」



↑原田琥之佑君/安楽選手/筆者/番家一路君

*

みんなが会った四人の選手。永山竜樹さん、稲葉玲王さん、安楽宙斗さん、文田健一郎さん。

僕は、この四人に会いに行ったんだ。四人に会った時、みんな同じ目をした。

大人だけど、みんな『きらきらした目』をしていたんだ。それは、『これから』を見ている人の目。

柔道、サーフィン、ボルダリング、レスリング。競技は違うけれど、日本の一番になった人たち。

今は、世界一を目指してがんばっている。

みんなのきらきらした目が、もつと光り輝く。そう思って、このお話を書きました。

ぼくはこのおはなしの題名を『アンシャンテ(はじめまして)』にした。みんなには、これから、まだまだ、たっ

ぷりの時間があるということです。だから、はじめてを大事にしてほしいって思った。

みんな、海にいったことはある？

砂浜に、青、緑、たまりに赤いきれいな、宝石みたいなものがありますね。

『シーグラス』っていう、遠い国からやってきたガラスのかけら。

ゆっくり、何年、何十年もかけて、波にゆられるから、とがったところが、まあるく、きれいになってやってくるらしい。

そんな、シーグラスを見付けるように、『はじめまして』が、心にキラんと輝くといひなうって思ひます。みんなの、シーグラスを見られるのを：今か今かと楽しみに待っています。



スペシャル!



↑安楽選手のインタビューの動画が見られます。



↑永山選手のインタビューの動画が見られます。



↑文田選手のインタビューの動画が見られます。



↑稲葉選手のインタビューの動画が見られます。

協力

上川さんご家族、サーフショップ DEEP SURF、ミキハウス、日本体育大学、東海大学、ロックランズ、ウインエージェント、SBC湘南美容外科、ウォーターブルー、ギルド B

撮影・運営

武田譲さん、澤入さん、築山さん